

令和 4 年 3 月 川口市議会定例会

施 政 方 針

川 口 市

令和4年度の予算並びに諸議案の説明に先立ちまして、お許しをいただき、市政の基本方針などを申し述べたいと存じます。

今回の市長選挙におきまして、市民の皆さんから多大なるご支持を賜り、引き続き市政運営の舵取りを担うこととさせていただきます。

市長3期目の初となる議会に臨むにあたり、60万都市の市長としての重責に改めまして身の引き締まる思いであります。

私は、「公平公正であること」、「弱いところに光をあてる」という政治信条のもと、市長就任以来、「川口の元気づくり」のため、まずは中核市への移行を実現させ、与えられた事務権限を最大限に活用することにより、市保健所を設置し、現在の新型コロナウイルス感染症対策においても、市が主体となって医療提供体制の確立や積極的なPCR検査、本市独自の「川口モデル」によるワクチン接種の推進など、迅速で効果的な感染症対策を展開することができました。

また、財政基盤の健全化を図るため市税収納率の向上に取り組み、7年間で合計406億円の市税収入を増額させたほか、3大プロジェクトをはじめ、市内経済好循環の創出や、子育て・教育環境の充実のほか、防災・防犯対策、さらには再開発事業・都市基盤整備など地域の特性に合ったまちづくりの推進など市政を大きく前進させることができました。

このような取り組みが「選ばれるまち川口」として支持され、「本当に住みやすい街大賞」に2年連続1位を含む4年連続でランクインするなど、多くの人から高い評価をいただくことにつながったものと確信しているところであります。

今後は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を最優先課題として取り組むとともに、環境との共生を図るため、自然環境の保護・育成やゴミ対策、その他、文化・芸術に対する市民意識の高揚にも力を注ぎ、中核市として成熟した社会の実現を目指したまちづくり、さらには働きやすいまちづくりなどに取り組んで参ります。

また、中距離電車の川口駅停車など残された課題についてもしっかりと取り組んで参ります。

このような政策を含め、私は今回の選挙にあたり、34項目からなる政策宣言「みんなでつくる川口の元気・第3ステージ」を新たにお示ししたところであります。

これからも、スピード感を持って取り組んで参る所存でありますので、議員の皆様のご理解、ご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願いを申し上げます。

それでは、令和4年度予算案について申し上げます。

来年度の一般会計予算案につきましては、「歳入の確保があつてこそその歳出」であることを念頭に、過去最高である965億円の市税収入を見込むほか、これまで以上に国費や県費も活用しながら、歳入の確保を図ったところであります。また、歳出につきましても、感染症対策や、様々なまちづくり施策のさらなる推進を図り、市民ニーズにしっかりと応えることを目指した結果、一般会計は過去最大となる2,198億円、特別会計、企業会計を合わせた予算総額としても、過去最大の4,256億円としたところであります。

続きまして、令和4年度の諸施策につきまして順次申し上げます。

はじめに、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症対策であります。

感染症との闘いも2年を経過し、この間、本市においては、2月20日までに、25,137人の方が陽性となり、116人の方がお亡くなりになりました。

謹んで哀悼の意を表しますとともに、治療中であります方々に心からお見舞いを申し上げます。そして、感染症対応の最前線におられる医療従事者をはじめエッセンシャルワーカーの皆さんに深く感謝申し上げます。

本市の感染状況であります。今年に入り、従来のデルタ株より感染力が強いともいわれるオミクロン株に置き換わり、今までに経験したことがないスピードで爆発的な感染拡大となり、2月6日には過去最大となる1日に748人の新規感染者を記録し、1月からの第6波だけで約15,000人を超える新規感染者数を記録し、現在も1日概ね300人から500人の高い水準で増減を繰り返す状態が続き、病床使用率も70%を超えております。

今回の感染の特徴としては、ワクチン接種をしていない10歳未満から30代の若年層の新規感染者が多く、家庭内で感染が広がり、保育所の休園や学校での学級閉鎖など社会経済活動にも影響を与えるものであります。

こうした状況下、私は、直ちに、感染症対策に対応する市保健所の職員体制を新規感染者数に応じて他部局からの応援職員も含め増員し、さらに派遣職員、委託職員を加え、平常時は50人体制のところ総勢160人まで職員の増員を指示し、保健所機能の強化を図りながら、市民の皆さんの大切な命と健康を守るため、職員一丸となって迅速かつ的確な対策を講じているところであります。

併せて、新型コロナウイルスワクチンを3回接種することにより、感染予防や重症化予防の効果を高められることから、当初、2回接種完了日から8カ月経過

した方を対象としていましたが、6カ月経過した方へと2カ月の前倒しを指示するとともに、集団接種会場、診療所等の個別接種に大規模病院での接種を追加するなど一日でも早く、一人でも多くの方に接種できる体制を確保し、今月までに接種率50%を目指し強力に接種を推し進めているところであります。

次に、3大プロジェクトであります。

新庁舎建設につきましては、現在、立体駐車場の工事を令和4年度末の完成に向け、順調に進めており、その後、新庁舎2期棟の建設や、第一本庁舎と新庁舎2期棟を結ぶ連絡通路の建設に着手する計画としております。

イイナパーク川口につきましては、平成24年度から整備に着手し、豊かな自然と多様な生きものとふれあうことができる環境学習の場など、整備が完了した区域から順次開園して参りましたが、屋内遊具施設を設置した首都高速道路初のハイウェイオアシスが完成したことから、4月24日には開園記念式典を開催し、いよいよ公園全体の開園を迎えるところであります。

今後は本市の新たな賑わいと地域振興の拠点として、市内外から多くの方々にご来園いただくことを期待しているところであります。

川口市立高等学校につきましては、昨年度にアリーナ棟が、今年度に第1校地、第2校地ともに屋外施設が完成したことで全ての施設整備が完了しました。

「文武両道」を掲げた本校は、国公立大学合格者を昨年は35名までに伸ばし、インターハイにも多くの選手が出場し優秀な成績を収めるなど様々な魅力を持つ学校へと成長しており、未来の川口を支える人材の育成が着実に進められているものと考えております。

次に、SKIPシティの利活用についてであります。

SKIPシティB街区につきましては、NHK川口施設として、約3分の2の土地を利用した映像制作拠点の整備が計画されておりましたが、昨年末、NHKよりB街区の残地についても追加取得し、施設規模を拡大したいとの申し入れがありました。

これにより、国内最大級のNHK映像施設がSKIPシティに誕生することとなり、本市としても前向きに協議を進めているところであります。

また、残るSKIPシティの未利用地につきましても、昨年組織した利活用検討委員会において、映像関連産業の誘致のほか、産業支援施設、商業施設の整備を行う方向で基本計画案が示されたところであります。

こうして、SKIPシティ全体が整備され、有機的に機能することで、就労人口の増加や雇用の創出などが図られるほか、施設利用者、買い物・飲食での来訪者、周辺地域の方々の利用など、多様な人々が集い、賑わいが生まれることにより、地域の活性化が期待できるものであります。

平成15年に「中小企業の振興」と「映像産業を核とした次世代産業の導入・集積」を掲げスタートし、約19年間進まなかったSKIPシティが、いよいよ完成に向けて着実に動き出すこととなりました。

次に、国際園芸博覧会への出展についてであります。

10年に一度、オランダ王国で開催される世界最大の花の祭典「2022年アルメーレ国際園芸博覧会・フロリアード2022」は、来たる4月14日から約半年間にわたりアルメーレ市で開催され、本市からは、日本国の一員として若手農業者等で構成される「川口市フロリアード2022出展実行委員会」が参加

いたします。

昭和57年の初出展以来、5回連続での出展となりますが、これまでの各種コンテストでは、金賞をはじめ多くの賞を受賞し、本市の植木や造園技術が世界の舞台で大いに評価されてきました。

今回は、「里山の農家の庭」をテーマにした日本の屋外展示区域に、安行の植木を中心とした樹木類を使用し、親しみやすく懐かしい風情のある都市庭園を制作するものと聞き及んでおります。

世界各国の園芸、造園技術が集結するこの園芸博覧会への出展は、都市化に伴う農地の減少や、農業従事者の高齢化、担い手不足など、厳しい課題に直面している本市の緑化産業にとって、卓越した技術と伝統を継承していくための貴重な財産となるものであります。

是非ともこの絶好の機会に、地場産業である「川口安行の植木」を世界にPRするとともに、最新の動向を吸収し、海外展開も含めた今後の緑化産業の発展につなげていただきたいと期待するものであります。

次に、沼田公園の整備についてであります。

旧鳩ヶ谷市民プール跡地である沼田公園は、隣接する第二沼田公園と一体的に防災機能を備えた公園として再整備を予定しているところであります。

この場所は地理的に本市の中心に位置しており、緊急輸送道路に指定されている国道122号に接しているなど、交通利便性の高い立地を活かし、周辺住民の一次避難場所となるよう、防災器具などを備蓄する「防災倉庫」や、普段はベンチとして使用し災害時に炊き出しなどが可能となる「かまどベンチ」、断水時にも生活用水としての利用が可能な「耐震性貯水槽」など、いざという時に威力

を發揮する様々な防災施設の設置を予定しております。

また、通常時は、子どもたちがのびのびと遊べる大型の複合遊具や、ご高齢の方にご利用いただき、その健康維持につながる様々な健康器具、さらには、公園周囲の園路をウォーキングコースとして整備するなど、誰もが安全で快適に利用できる憩いの場として、令和5年度の開園を目指し整備を進めて参ります。

次に、救急体制の強化であります。

現在、14台の救急車に71名の救急救命士を配置し、現場から医療機関へ搬送されるまでの救急活動である「病院前救護」を効果的に実施し、迅速に救急要請に答えているところであります。

また、救急救命士2名乗車を可能とするための救急救命士の養成や、多様な住民ニーズに対応するため女性救急隊員の乗車率の向上に努めるなど、市民の安全・安心のためより質の高い救急サービスの提供に努めているところであります。

しかし、このような中、救急救命士には、技術の維持・向上のために、2年ごとに48時間以上の病院実習が義務づけられていることから、病院実習時に不在となることが課題となっておりました。

私は、こうした課題の解決のため、市立医療センターにおいて「救急ワークステーション」を、令和4年度から試行的に運用することといたしました。

この取り組みは、日中の勤務時間に救急救命士と救急車をセットで医療センターに派遣し、病院実習を行いながら、大きな事故等が発生した場合に、救急要請内容に応じて、医師と実習中の救急隊が、医療センターから直接出場することで、病院実習時の救急救命士の不在を解消するだけでなく、医師が、事故現場に到着

するまでの時間短縮が可能となり、より高度な病院前救護を早期に提供することができるなど、救急活動の強化につながるものであります。

市民の安全・安心の確保を第一に考え、あらゆる救急要請に対応できる高度な救急体制の構築に取り組んで参ります。

今後こうした「川口の元気」の原動力となる様々なまちづくりの諸施策に、スピード感をもって取り組み、多くの方が「暮らしやすい」「住んで良かった」と実感できる「さらなる選ばれるまち」となるよう全身全霊で取り組んで参る所存であります。

以上申し上げました施策を含め、令和4年度の予算編成を行いました結果、その規模は一般会計におきましては、対前年度当初比4.9%増の2,198億2,000万円、特別会計は10会計で、対前年度当初比1.9%増の1,440億7,160万円、企業会計は3会計で、対前年度当初比3.4%増の616億7,400万円となり、全会計では、対前年度当初比3.6%増の4,255億6,560万円となった次第であります。

さて、今回提出いたしました議案であります。予算議案は、令和4年度一般会計をはじめ14件、一般議案は、「川口市職員定数条例の一部を改正する条例」など、条例議案16件、訴えの提起議案1件、包括外部監査契約の締結議案1件、人事議案3件であります。

それぞれの議案内容につきましては、この後、副市長から説明を申し上げますので、慎重にご審議を賜り、ご可決下さいますようお願いを申し上げます。